



266号 発行所 / 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者 / 病院長 吉野 茂文 印刷 / ㈱アートネクスト

HBOとは
HBOは、高気圧環境下で純酸素を吸入することで動脈血の酸素分圧を高め、低酸素障害を改善する治療法です。



当センターでは、高気圧酸素治療(Hyperbaric Oxygen Therapy, 以下HBO)を行っています。

当センターの高気圧酸素治療のご紹介

- 主な治療効果
HBOの治療効果は、以下の5つに分類されます。
1. 気体や気泡による疾患の改善
2. 細菌感染症の治療
3. 末梢循環不全や虚血再灌流障害の改善
4. 創傷治癒の促進
5. 化学療法や放射線療法の効果増強

当センターの治療実績
当センターでは2009年に第1種装置1台で治療を開始し、2013年に2台、2024年には3台体制となりました。
治療回数
2019: 894
2020: 1330
2021: 1967
2022: 2268
2023: 2420

外来診療担当医一覧表

2025年2月1日

Table with columns for Group Name, Clinic Name, Day, and Doctor Name. Includes sections for General, Circulatory, Cancer, and Long-term Care.

赤字は今月の変更分です。

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号
国立病院機構 関門医療センター
診療受付時間：午前8:30～11:30
午後(各診療科外来にお問い合わせください)
※休診日:土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)

# 高気圧酸素治療装置を増設しました

高気圧酸素治療室では、2024年12月に当センターで3台目となる高気圧酸素治療装置(セクリスト社製 33000HJ)を導入しました。かねてより治療件数の増加に伴い、患者さん用の更衣スペースおよび治療スケジュールの調整に苦慮していましたが、今回の増設により、余裕を持ったスケジュールにて安全・安心な治療を提供できるようになりました。

また、増設に伴い高気圧酸素治療室も増築され、手狭だった治療室も広々と使用できるようになりました。特に、外来



臨床工学技士長  
みしろ ひでき  
三代 英紀

患者さん用の更衣スペースおよびロッカーを1名分から2名分に増設しましたので、外来患者さんの治療にも、お待たせすることなく対応できる治療室となりました。

今後もより良い治療を提供できるようスタッフ一丸となり頑張つて参りますのでよろしくお祈りします。



高気圧酸素治療装置(セクリスト社製 33000HJ)



更衣スペースとロッカー



増築した後の高気圧酸素治療室

# 忽那 賢志先生をお迎えし



令和7年1月17日に大阪大学感染制御医学教授 忽那賢志先生をお迎えして、研修医を中心に講演・症例検討会が行われました。忽那先生は、山口大学医学部を卒業され、関門医療センターで初期研修医として医師のスタートを切られました。現在は、感染症を専門とし、新型コロナウイルス感染症の臨床・研究の第一線で活躍されておられます。



研修医  
なかむら ももこ  
中村 桃子

今回、忽那先生の講義を聞いて自分が感染についてまだまだ未熟な点が多くあるなと感じました。私は発熱があれば上気道症状がなくても、最初にCOVID-19やインフルエンザの検査を行っていました。それが病院の方針であったという理由もありますが、まずは自分で必要の有無を確認することが大事だと思います。

また、感染性心内膜炎(IE)の2例の症例検討を行いました。私自身も発表させていただき、普段あまり経験することのない症例で勉強することが多かったです。私の症例では一旦IEを否定して抗生剤の中断を行いました。既往歴や経過から様々な可能性を考えて選択肢が他にもあることを学ぶことができました。クリニカルピクチャーの講義では自分の経験のためにも必要な事であり行つていこうと思います。

この度は素敵な講義ありがとうございました。また機会がありましたら是非よろしくお祈り致します。



研修医  
くにのぶ もも  
國信 萌々

関門医療センターの研修医の大先輩の忽那賢志先生にお忙しい中お越しいただき、貴重な講演を拝聴しました。

実際の当センターでの症例を用いて症例提示を行い、考えられることを意見を出しながらディスカッションしました。様々な意見が挙がる中、考え得る疾患や治療について一つ一つの理由を挙げ補足をしていた、最も考えられる疾患に辿り着くことが出来ました。

症例提示の後は、クリニカルピクチャーを用いた論文についてのアドバイスをいただきました。実際の診療をしていて身体所見の大切さを感じていたので、写真に撮つてデータとして残すことで勉強にもなりやすし、論文に投稿し世界に発信することもできます。改めて、写真に残すことの大切さを実感しました。

2時間という限られた時間でしたが、研修とはまた違った貴重な経験をさせていただきました。またお越しいただけることを楽しみに日々の診療を頑張つていきます。

# 吉水内科での研修を終えて

私は4週間の間、吉水内科及びその他の多数関連施設で、地域医療研修を行わせていただきました。研修の到達目標である「地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる」を意識したうえで、見学及び実習に取り組みました。

まず今回の実習を通して学んだ最も重要なことは、「要支援・要介護に該当する方がどのような医療サービスや介護サービスを受けられるのか」、また「そのサービスを受けるためにはどのような職種の方がどういった手続きを行う必要があるのか」についてでした。

普段の研修は主に救急外来や急性期病棟で行うことが多く、患者さんの疾患について深く考えることはあっても、その方の退院後の生活までは考える機会ほとんどありませんでした。そのためグループホームやケアハウスなどの地域包括ケアを支えている施設についての概要について理解が追いついていませんでした。なので、実際の施設を多数見学させて頂けたこと、吉水理事長から直々に施設についてご説明して頂いたことは今後地域医療を行うていくうえで大きな糧となりました。

また、特に印象に残っているのは「特別養護老人ホームフェニックス」で職員の方や入居されている方からお話を聞いたことでした。いわゆる特養は原則要介護3以上で65歳以上の方が対象で、24時間体制で介護が受けられ、看取りまで利用可能であることを特徴としています。それでいて民間のサービスと比べて安価であることから、入居待ちの方が何十人とおられると聞き驚きました。しかしそれほど需要がある一方で介護に従事しておられる

方の数は多いとは言えず、その中で運営を滞りなく進めるために、施設長をはじめとする職員の方々が、求人や勤務形態、物の配置などにおいて様々な工夫をされていることを知ることができました。また、施設の機能的な側面だけでなく職員と利用者の人対人のコミュニケーションを見ることにより、より具体的なイメージを持つことができました。今後の診療を進めていくうえで、適切なプランニングを提案する際に活かしたいと思えます。



研修医  
つかもと ふみまろ  
柄本 史磨

あとは様々な職種の方と関わるうちに、その職種の方の専門性の高さや、その職種ならではの視点があることを感じました。例えば児童発達支援事業所に訪問した際に未就学児との触れ合い方には私は苦戦したのですが、職員の方は安全面に配慮しつつ教育的な目線で接されていて、大変勉強になりました。また包括支援センターでケアマネージャーとお話しさせて頂いた際にも、ケアプランについて様々な観点からお話し頂き、学ぶところが多かったです。正直これらの目線を私一人で持つのは非常に困難だと思えます。だからこそ日頃より多職種の方とのコミュニケーション関係を良好にすることが大事なのだと考えるきっかけとなりました。



吉水内科

# 注射薬自動払出システム更新

この度、当センターの注射薬自動払出システムが最新の機器に更新されました。注射薬における多彩なニーズに応え、安全かつスピーディーな払い出しが可能になりました。

- 1施用毎の払出  
安全に注射を施用できるように、4分割トレイで1施用毎に注射薬を払い出すことができますようになりました。
- 確認しやすい取り揃え  
機械による薬品とラベル、注射箋の向きを揃えた整列払い出し方式で、確認のしやすさに配慮されています。



- 払出時の使用期限管理  
払い出し時に注射薬1本ずつのGS1データバーと使用期限を照合しながら、1時間当たり3000トレイのスピードで払い出しができます。

注射薬自動払出システムの更新で、機械による安全でスピーディーな注射薬の払出ができるようになりました。業務を効率化することでひとりの患者さんと向き合う時間を確保し、満足していただける薬物療法の提供につとめていきたいと思えます。



## 安全な返品作業

病棟で使用されずに返品された注射薬は、注射返品薬払出機のトレイにそのまま入れるだけで、機械がGS1データバーを認識して薬品を特定します。その薬品を機械が自動で仕分けして管理し、使用期限の近い薬品から払い出しが行われます。



自動で仕分け



トレイに返品